

No

4

HO  
KKAIDO

建築士会

女性部会

平成 4年12月9日  
編集発行 女性部会

〒060 中央区北4条西5丁目 三井生命共同ビル (社)北海道建築士会 ☎ 011-251-6076

## 第19回全道大会と第6回女性建築士の集い

函館支部 吉田 順子

去る8月27、28日の両日、函館に於いて全道大会を開催致しました。全道各地から約50名の参加を頂きまして、ありがとうございました。特に釧路、十勝、北見支部等、遠路から参加された会員の方々、長旅、本当にお疲れ様でした。

また、今回は青森県女性部会からも、数名御出席頂き、盛況に終わ、たのではないかと思います。

夜のスピーチボードデッキでの懇親会(ビンゴ、じゃんけんゲーム、イカ踊り、採りたての海の幸 etc...)は楽しんで頂けたでしょうか?

また、28日の研究集会では3つの分科会に分かれ、それぞれのテーマについて活発な意見が交わされました。

来年は旭川での全国大会、さらには平成6年、網走での全道大会という大きな行事が待っています。

これらの大会が成功するように力を合わせて頑張りましょう!!

平成5年度は、道南ブロックが『HO  
KKAIDO』の  
編集を担当することになりました。

たくさんの情報をお待ちしておりますので  
ご協力宜しくお願い致します。

(道南ブロック・広報担当一同)



深々ト頭ヲ垂レル之図

# Attention



北海道立近代文学館(仮称)構想設計競技の結果発表!!

既に報道されている通り、最優秀賞は北海道建築設計監理(株)の作品でしたが、我会札幌支部の瀬尾尚子さんが設計に参加した(株)高岡建築設計事務所の商品が見事、佳作に入選!!  
おめでとうございます!!

その瀬尾さん、10月末に男の子が誕生! おめでた続きです。  
重ねて オメデトウゴザイマス!! パチパチパチ



# Books

“老い”をテーマにした本を3冊...

1. 「老いの青い鳥を求めて」 樋口 恵子 監修  
(ミネルヴァ書房 刊 ¥1,700)
2. 「老後のわかれ道 一人の最後をみじめにしない高齢化社会の上手な生き方」  
中島 れい 著 (日本図書館協会選定図書 ¥900)  
...以上2冊は女性部会所有の本です...
3. 「生涯の家 共生の街づくりーあなたはどこで老いを迎えますかー」  
鎌田 清子 著 (学文社刊 ¥2,500)

★担当期間が終わり、これからは読者として毎月届くのを楽しみにしています。(M.K)

★この2年間で身についたことと言えば“いかに楽をして紙面を埋めるか”やはりこれに尽きる!! (M.E)

★会報作成後の飲み会が楽しみで...これで終わりかと思うと、少々淋しいです。(N.Y)

★締め切り日の直前にならないと原稿に手を付けないのは、仕事の時と同じや..ア..ハ..(K.W)

編集後記  
拡大版

★あっという間に広報を担当して2年がたちました。20代だ、た私が明日には30代の仲間入り。イイ女にならなくては!! (H.K)

★楽しい2年間でした!!  
道南ブロックさん  
ガンバッテ!! (A.N)

ナンダカンダと2年間、4号読んで下さり、ありがとうございます。次号から道南ブロックにバトンタッチです!!!

広報担当 江岸 真由美・工藤 美智子・久保 福子  
二ノ田 彰子・横田 信子・渡辺 圭子

SPECIAL THANKS TO MS. T. TAKAMATSU ♡♡♡



① 身体又は精神機能が一人で自活できる場合までは、自宅で住み続けたい。  
 私の場合は、自宅は、お住環境が良くて、利便性の良い場所であることも不可欠です。できれば、近く又は住棟内に知人等が住んでいる集合住宅の方が長く住み続ける上で望ましいと思いつく。

② 誰かの手を必要となった場合には、より効率的に、専門的な介護等が受けられる、お住居系に近い施設に住み替えて、福祉サービスを受けたい。  
 誰か一人(専任的)の時間を提供してもらう形での介護では、親しげな遠慮、お礼に乏しく、本人の主体の最後は、生方とて避けたい。

1. 私たち夫婦には子供がいません。まだ30代ですし、高齢になってだれかに介護されるということについては、全く想像もつかないというのが正直なところですが、そして、いつかは誰かに介護してもらう時が来るのかもわかりませんが、自分の理想としては、最後の時まで「自分の意志」による選択権を持つことだと思います。少しずつですが夫婦で「尊厳死」や「南犬体」や「お墓に入らないで海にまいてもらう団体」への参加なんかのことを話し合っています。

2. 主人の母が入院しました。さらに同居しているおばあちゃんも入院しました。私の父も今は休んでいます。そう遠くないうちに闘病生活に入ってしまう。理想やあるべき姿にはいろいろ言うのですが、自分だったら...という何の想像力もありません。現実と直向してから対処しようというのがホリエです。目前に「お世(介護)」がある。何を言ってもウソからじらしい言葉になる気がするのです。  
 ...ああ 困った...!!

現状では、あまりにも介護する側の負担が重すぎる。外国にけられるナーシングホームの様な充実した施設があれば、そこに入所した方が、自分の身も楽だと思つて。  
 あとは、看護資格のある人をやとつて、めんどうを任せよう。昔のように、かかりつけの医者がいつでも往診に来るべくおくと、ずうと便利になると思つて(一部の病院では在宅ケアをやっています)  
 テーマ2 ..... (白目の立場と) 結局は仕事をやめなくては、よめる...

私の家は昔、大家族で、親子(他に祖父祖母祖父母の妹、母父と高齢者)がひと節に暮らした時期があり、それゆえ病院での介護、自宅での介護、そして親の病気の病入、退院と... 結局友人も看取りました。家族の力があつたおかげで、母に負担がかり、大変な仕事をしてきたおかげで、母の介護は仕事をせざるを得ないと思つています。

自分の場合を考えると、一人暮らしのおばあちゃんに病気にしてもおつたら他人に介護をお預けする事になるおぼろしいと思つています。在宅、在宅というお声のわりには、ホリエや、住居の協力... いろいろお声の聞え不安です。又医療システム、介護システム、行政も含めた地域サービスの連携が病院に、何年も入院する様子は、おぼろしいと思つています。(現状の病院は、あまりに患者の生活が考えられていない最後のまでより人間らしく生きてほしいと思つているのですが...?)

自分が介護される立場になるということは、日頃健康に過ごしていると、なかなか実感をもっては、考えにくい事です。素直なところ、これまでそういう場合について考えた事はありません。

現実の、休みなく営まれている、日常生活の中に、介護すべき存在を受け入れるということは、おそらく頭で考えている以上に、様々な多くの問題をかかえる事になると思います。介護する人手と時間の問題・経済的な問題・介護する側される側の精神的な問題ほか個人の問題として引き受けるには、結構、荷が重そうです。それでも、身近に家庭の中で介護して、あげたいという個人々の思いにささえられていく部分が大きいのではと思いますが。公的な機関、役所や医療関係、そして生活している地域社会による、在宅介護を援護するための制度や体制を是非にも整えてゆく必要が、あると思います。

Ⅲ 介護される場合の自分の健康度

少し歩ける寝たきりほど身体機能レベルによって介護してもらう方法は違って来ると思うが、根本的には介護されたくない一生丈夫な身体でぼろりと死にたい。介護されるとしても病入扱いにはされたくない。まず最初に介護を依頼するのは配偶者、次にY-モバイルカー、子供がしたとしても頼まない。色々な設備機器を投入して出来るだけ何でも自分でしたい。

Ⅳ 家にもりきりにさせずなるべく屋外に庫裏だしてあげる(散歩、買い物等) Y-モバイルカーの手を借りて自分自身の息抜きも必要だと思ふ。又介護されている人に介護してあげているという精神的負担を出来るだけかけない方法を取りたい。

何かしなくちゃいけないという想いと実際には何も行動を起こしていないというギャップにおまじカワコのおい事は書けませんか 例えは在宅福祉で「1人暮らしの老人」だとすると月並みですが話し相手や、寝たきり老人だと細々とした掃除などのサービスを考えます。以前 TVで見た給食配達というのがある町で暮らす1人暮らしの老人に毎週の給食を配達するというのがありましたか。  
あまいうのをゆつら(1人暮らし)おまじカワコのと来てました北海道ならおまじカワコのおまじカワコにはつらい作業だと思ひます。  
ようと思ひか、まだいくらでも来てもらうか、只、1人暮らしのおまじカワコは、おまじカワコで義務づけられておまじカワコを続けるべきでは無いでしょうか。  
(もしかしたら、おまじカワコない人、イヤヤおまじカワコもいらかもおまじカワコ) おまじカワコ エム掃除などカワコは男性、女性としては思ひかワコ行動をおまじカワコで。

介護出来る状況なら、出来るだけ、現在の住宅を改造して、介護したいと思ひているが……。

器具等、高価な品も多い。又、体力的に、女の自分も、耐えられるだろうかという不安。そして、自分が先に介護される方に、身体になつたら、何か、支えてくれるだろうか？ という、不安がある。

(家の近くにある、その方に、施設は常に、満室である)。

在宅の場合、自分の留守の時、アルバイト的に泊り込んで、めんどうを見てくれる。ベビーシッターのほうで、体倒れるくらいと思ひか。保育所と同じ場所が欲しい。

現在86歳の痴呆の義母を在宅介護  
できずに、入院させてあります。

在宅介護するには、住宅の構造的な  
向題より、はるかに人的向題の方が大きい  
と実感しています。子持ちが少なく  
なるという現実を考へるとき、女性にかかる  
負担が大きく、仕事との両立はもとより、  
メタルな啓防で、はきりと不可能と考へて  
しまいます。こうした現実を考へて、在宅  
ばかりがベストという考へを、より人的的で  
暖かみのある老人病院の建設という  
ことに切り替えるのも一つの方法  
ではないかと思ひます。

数年前には立場が逆になるわけで  
子に負担をかけたくないと、つくづく思う  
のが見えます。

私はまだ少し若いので、介護される利もする立場  
には ぬかに遠い先の話しではなくてやてくと  
思ひますので②のテーマにしました。介護するといふ事は  
本当に身近な向題で、そして今は両親も健在ですが  
いつとなるのか予想のつかない事である。だから  
少し考へて見ました。介護するといふ事は 暗面的に  
拘束もされるし、そして体力が必要なので大変な事と  
思ひます。今ならば 死ぬ若いので、十分な介護も  
できると思ひますが、私も高齢にひつた時はムリで、  
時間と体力の消費を少しでも減らす様に、介護しやすい  
住宅を作る事も大切だと思ひ、ホームヘルパーなどの  
活用も重要だと思ひます。介護される側が自立で  
できる事はコントロールできるという環境を作り出す事  
の方が大切だと思ひます。実際には現在の自前で介護  
といふ事はムリなので、改修しなければならぬし、……  
私の住む瑞野町にも近い、マイナービルディングで、  
昼の何時もが老人をまわすから、みんなどに入ってくる所ら  
いで、少しでも介護する人の負担が少くなると思ひます。

2. 在宅福祉について (介護者の立場として)  
人間年をとって、住み慣れた街で親しい人  
達と暮らして行けるのは、幸せな事ではある。  
しかも、誰か自分のできなくなった事を、代  
わってやってくれるのであれば良い事である。

在宅福祉は、家族が最低の単位となる。し  
かし、介護者は現在の所、概ね妻または嫁・  
娘の役割となっている。これでは、女性が外  
で仕事をするのは不可能に近いものがある。  
介護には、家族の理解と協力が必要だが、  
現在では、その理解が十分になされていると  
は考へられない。(男性の意識・社会情勢・  
子供に対する教育を含めて)家計を支えている  
のが、夫婦であれば、夫の転勤により引越  
し、または夫の単身赴任と言う現象が生まれ  
る。現在の企業の社宅や賃貸の住宅は、在  
宅福祉に最適とは言えない。転勤の時に、ど  
うやって両親を連れていけるのだろうか。単  
身赴任の場合、親や妻子をおいて、行くのは  
心残りであろうし、人的だと思へない。

男性の育児休暇・介護休暇の制度が、でき  
たとは言へ、それを利用するのは、社会的に  
も、まだまだ先のことだと考へる。  
そんな中で、在宅福祉は一部の人間に多  
大の犠牲を強いるものであり、一概には賛成  
しかねる。

今現在、親に介護する家族の老人の  
いないので、具体的には、何も考へて  
ありません。只両親にいて、子供は  
私だけという事を考へると、いふれ、  
どのような可能性は強いと言へます。  
いつまで健康でいてくれるかと  
勝負の事考へていふ事は、今は別  
居しているので、近い将来同居する  
様な環境を考へねば、と思ひます。  
仕事を持たせからの介護は、中々難しい  
ので、ヘルパー制度の充実が望まれます。

自分の親の病に悩まされながら、  
 出来るだけ病院や施設に入りたい。  
 字 心面倒をされているか、  
 回りの人も見ている介護者の負担  
 負担(お金 身体的)は大きいから、  
 生を考へてはならない。  
 もっと自宅で老人を介護して、その  
 負担も軽くある。別居は、  
 サービスも増えているから思っている。

私は同居していませんが、自分の家で祖母の世話をしている母が体調を悪くしたため、私と姉が世話をすることと考へなければなりません。介護についての知識がなにもないし、自力歩行は出来ないのですが、それ以外は自分でできる祖母を動かす腕力もないのです。釧路には介護老人ホーム(というかわからなけれど)は少なく、老人病院といわれているところも病気が治るとすぐ退院させられるということなので、期間の長短はあっても在宅看護をすることになると思います。急に倒れそのまま寝たきりになることも多いだろうし、病人の介護について学ぶ場があったらよいと思います。既に介護している人を対象とした講習会がありますが、会社勤めの人も参加できるような日時であればいいと思います。病院から急に在宅になると介護する側も、される側も大変なので介護に慣れるまでの訓練の場があってもよいのではないのでしょうか。当然そこでは、介護の講習会を開いたり、入浴リハビリのできるディサービスをしたり、旅行や不幸などがあって介護できない時の短期入院ができたり…介護老人ホームと併設されているところもあるようですが、介護する人間の心身の健康についても対応できればよいと思います。介護の期間が長くなると介護する人も疲れてきます。老人がディサービスを受けている間に介護者が健康診断を受けたりできればいいと思うのです。介護休暇が一般的なものとなってほしいと思います。期間が長くなる可能性があるし、産休のように予定がたみにくい(急に倒れたりすることもあるから…)とは思いますが。有給でというのは望みが大きいでしょうか? 無休でもしかたないかもしれませんがその場合、復帰後に返済できるような低利の融資制度があれば(できれば)と思います。介護用品や介護のための住宅のリホームについても同様の融資制度があればいいと思います。もっとも介護用品は介護されている人が死んでしまうと、必要なくなるものなので無料貸与するという制度があってもよいと思います。高齢化社会と言われている現在、制度や環境がすこずつ変わっていくだろうと思います。それでも介護するのは自分たちだから、いつでも対応できるようにしておきたいです。

私自身は介護と父親の死の間から25才で死に別れ  
 りて死後の介護を見てきた。  
 本書 介護はいい、自分が出来ることを。  
 運前、他人の手・身内の介護の行方、出来るだけ  
 的 効率的に繋ぐ。  
 この 本書と運前のオキマツの文章に自分で  
 おどろいてます。  
 私自身 子供がいないので老人に合った時 護に  
 されたこと、希望が書けてる。  
 その 身体、あちこちが ホンコン化して来た  
 車が 動くとも生活出来る 都市部は 軽め、と  
 思っています。今の 環境では 車が なければ  
 生活出来、少くなく 不自由という 環境  
 に 不自由が せまらぬ。  
 大都市に 住むと 十勝 現存民の 意識の 差は  
 いかにも 自由に 行きた、前に行けたかの 差から  
 決められる、強か、弱か、の 差が、と  
 近頃 思っています。

老親の介護について。  
 以前に 父親の時、母の時に  
 この 次女が 病気に なる、  
 完全看護の 病院に 入れる、  
 自分の 職業、を 継続する 方法、  
 無心で 悟りました。  
 在宅の 理想、思っています。  
 小供の、その 時期が 来た、自立、  
 かに 音で 期限、の 看護、の 必要、  
 方も、ある、方も 重荷、です。  
 そして、その 責任、を負う、です。  
 男も、同じ 義務(小供、と、)を 背負う、  
 女も、同じ 責任、を 背負う、  
 子、腹を くらぐ、と、必要、を、



私たちは、これから高齢化した社会の中で暮らしていかなければなりません。この先益々若者が減っていくと、7人7人に掛かってくる負担が多くなってきます。そのような社会の中で、老人ホームというものが多く要求されてくると思います。現在のように冷たいイメージだったり、お金持ちでなければ利用できないうようなものではなく、一般の人達が気軽に利用できる暖かいホームの建設をもっと多くしていかなければならないと思います。

核家族化の進む中、高齢者も自分の事は自分でしていけるようにしてほしい。これにはまず環境を整える事が大切だと思います。これは家の中だけでなく社会全体と考へ、道路の整備や雪の問題、交通等と解決していく事が、必要だと思います。

高齢化社会、日本の近い将来を道格に表現している言葉だと思います。高齢化社会は20-30年寿命集団であり暗く悲観的なイメージが一般的だと思います。自分も確実V.その社会V.足を踏み入れなければならないから高齢化社会は楽しい花物の人々V.を待って生活していきたいと思っています。

私の住んでいる街には、病院・公共施設、学校・デパートの福祉に対する施設がまだまだ整っていません。公共施設・デパートも同様。あの病院はエレベーターが入る玄関が数少く不便を感じている。私たちが特に思うのは小学校です。障害者達への配慮。そして子育て世代の福祉に対する関心が高まっていくと思う。このような管入体制が完全であることが望ましい。22世紀には福祉国家日本となるのでは?!



高齢化社会といわれる昨今だが、私も二十  
年ほどたぬ内に六十代を迎える。  
三十代は子育てと仕事に追われ、考後な  
ど頭には全然なかった。

しかし、四十代になると切実に考えるようになった。  
まずは **資金面**

毎日の生活が精いっぱい。考後に備えての  
貯蓄など後廻しにならざるおえない。

だが、千里も積もれば山となるというやる気  
が出てくる名言がある

千里も道も一歩からだ!!

死ぬまで現役の一生を現実のものとするからには、  
石あたまから健康面を直さなくては  
思っている

棺桶に入るその日は働らいて、そのまま天国へ  
旅立りと共に行きたい

高齢化社会について、今更

実感がありません。世の中が、

じんじん新しくなっている感じが

時の流いに人が対応できなくな

っている身を大変心配に思っています。

生活になくてはならない電器にしても

「フッシュ信号」等を理解できている

高齢の方がどのくらいいそうでしょうか。

カード式 TEL、アリアイドカード etc...

しても便利に思えるのが、高齢の方にし

逆に不便じゃないのかなと思えます。

時代かめぐる早に負けず、**「簡単便利**

ばかり追い求めず、名ばかりの  
高齢化社会の作りこみになってしまう  
ような気がしてなりません。

高齢化社会という言葉が聞くと、少し  
古いのですが、**「姥捨て山」**をイメージ  
してしまいます。

芝居はいい、臭いなど老人ホームそのものが  
高齢化社会ではいいかと錯覚してしまう  
こともあります。

でも、自分の親もその年齢の域に入っている  
事と考えると他人事ではいいと、最近大  
づく感じます。

何れ、自分もそのようになるときに、今の  
自分のような考え方式(イメージ)が少しでも  
減らなければと思います。

直接テーマとはかけられているが、高齢者と  
高齢化の重なり、在宅老人看護婦等の病院  
関係など、決してキレイな仕事ではない若い人  
をばいり管が敬遠する中、健康な体も他人達  
が手助けをする場所という、手助けを必要  
なシステム作りを考へたいと思っています

その中、**個人個人**

各々団体ごとにはボランティア活動推進係  
自分達の出来る日を申込み登録し、  
社会に参画してあげたい。一人の肩に  
かかる此星が少しは軽くなり、若い人も  
自然に何か助けられる様な環境作りが  
出来たらと思っています。

個人々々として1か月の内、半日をボランティアを  
行ない、健康な体に感謝する日。

高齢という言葉自体、いったいいつからか「高齢」であるのか不解な言葉になっていると思う。

実年齢と精神年齢にも個人差があるし最近の60代・70代も非常に活動的で元気な方が多いと思う。

地域の老人参加の行事も多くなっていて、高齢化社会を意識した活動がこれからもと、もと増えていくと思えます。

家の中にこもるのではなく、社会参加する事によって精神的にも、肉体的にも出来るだけ長く現役でいられるように頑張りたいと思えます。

いやおうなしに進む高齢化社会をみんなが楽しく過す事も考えたいものです。

この数年、女性社会の活動に参加してきて「高齢化社会」という言葉を多く耳にし身近に感じているつもりですが、実際、自分自身のことには置き換えてみると全くと言っていいほど問題意識が無く、例えれば、自分の家を持つことが出来れば、その家に年老いた自分も想像してやら、マニピュレーションは必要なくとも組ませればプランするだけでは、今の段階(今年)では不可能に近いものがあると思います。むしろ無責任な言い方をすれば、その立場に立つてみれば何か必要ならその判断つかないのです。

そんな若さでよく「家」が違えばとて天の声が傳ってくる様子を、——  
近い将来、必ず訪れる「高齢化社会」という言葉だけなら、スリッパを履くのが、21世紀。

時は、高齢化社会に向けて、超特急で走り出していますが、団塊の世代としては(みくまで後ればこわくない)の気分です。お別れ時刻に居ていませぬ。社会全般が施策を改良に力を入れるでしょうから、真実中に立ち着くとしては、年を重ねる事に希望を見出せます。しかし、自助努力も必要ではあると思えます。

肉体的な衰えは、防ぎようもありませんが、精神的にはいつまでも若く暮らしたいと思えます。最近聞いた言葉の中で「印象に残ったのが、(人生を樂(は)舞台つくり)が有ります。老後を樂(は)舞台つくりの一つとして住むを志す時に、年利、役員、志、暖かい等が有りますが、人のふれ合う場つくりのベランダ、木の活用を志す。まわりと調和、大切と思えます。内にはかりに死を解するのはなく、外に何けても舞台つくりは一般かいたいものです。

高齢化社会の仲間入りを目前にして、精神活動、身体状況、経済状況、家族構成等により、主人と二人と二人(住まうのがハズ)のため、今決断をせざるを得ない状況は、とりま直す、どんな生き方を有るのかによるが、住み慣れた一軒家を建て出せる限り住み続けたいが、行政の支援が一歩システムの上を強く進める呼びかけを待ちたいと思っています。

高齢化社会について、日本中情報があふれておりますが、一方的な情報提供だけで、実践に基づいた情報が少ないように思います。行政も10カ年計画に基づき、官・民一体となった活動を展開しており、ここ数年の間にめざましい勢いで、高齢化社会へ向けての環境が整備されてきました。私達建築に携わる者として出来ることは“住まいづくり”は生活すべてに関わる重要な要素という認識に立って、沢山の事例の情報を収集し、適切な提案が出来る建築士として、これまで以上に勉強に励むことだと考えています。「健康な生活は健康な住まいづくりから」ということで岩手県の一村長が実践した高齢者の住まいの改善について紹介され多くの見学者が訪れているそうです。

村の財政のほとんどが、寝たきり老人の医療費の支出だったため、おもいきった行政の改革として、寝たきり老人の家を日当たりの良い住宅に建て替えたところ、それまでの寝たきり老人が大幅に減り、医療費の支出が激減し、予想以上の成果が得られたという事です。今では、村民一同喜んでいそうです。

高齢化住宅とは、大掛かりな設備を備えた住まいづくりではなく、ちょっとした配慮が出来る住まいづくりではないでしょうか。住まいづくりに対する要求は個々に異なりますし全部が障害を持つわけではありません。その時々によって、快適に暮ら

せる住まいづくりの提案が出来る建築士でありたいものです。

高齢化社会というのは、単に家族の構成員が年老してゆく以上に複雑なこじみの点だと思います。核家族となっている現在、介護者を得られない高齢者はしるでしろう、増えていくと思います。また、働く女性が多い以上、家族単位ではなくコミュニティ全体で、「自分が高齢になった時、どう暮らしたいか」考え、その実現を目指すべきだと思います。財政面などの問題は多々でしょうが...

高齢化社会という特集が最近新聞等に載る機会があります。自分自身ももう入口はいるので深く考えなければいけません。

まず健康が第一の目的で、核家族の給食と和食、自分の週休の年をわづらせず年を無理に思いません。私個人の見解で、老人施設のことよりも建物がある年金で生活できる場があると便利なので考えるべきだと思います。

立派な施設が出来ると必ずしも皆が安く利用出来るわけではない理想にはなりません。

高齢者として健康な方からいって、年金の少く取給が必要で、仲間がいないと仕事も出来ず、生きることが出来るようになるでしょう。

誰もが避けて通れない高齢化で、現実を渡す為には協力が必要だと思います。

選挙のスピードにはおろそかに皆様の真剣に考えたいわけにはいかない問題だと思います。

- 管理上、数字、区別等からの言葉に感じます。
- 人間だけでなく、環境(自然・社会・等)をこ念めて考慮可能な問題に思っています。
- 『高齢化』に致るまでの時間の経過の仕方、使い方が、これから先の高齢化の方向性になると思っています。

- ① 出来るだけ、めんどうを、かけないよう、努力を続けるが、それ以外の周囲に、かかる負担が、あまりにも大きくなると、予想される時は、意識と行動力のあううちに、他人には、自殺と見做すか、一人で、確実に、死ぬるような手段を、実行するが、又は、人間としての、霊的な立場を、失墜しない方法で、異界へ、早く行きたい旨の、正式な依頼書類を、作成して、信頼出来る数名の人に託す。
- ② 縁が有る共に生きている相手には、人間として、出来る限りの愛情で、最後まで、誠実でありたい。  
けれども、現実には、介護される人が、冷酷な性格で、他人につくされる事を、当然のこととして、まじな意識が、あるのにも、かかわらず、あたたかい表情(目つきだけでも)一つさえも、示さないときは、体の疲れの上にも、心理的な、つらさが、重なって、耐えられないので、入院(せらう)。人間としての、あたたかい心が、あっても、話せない人は、病気の、原因だと思つて、納得出来るが、ギリの様な言葉で、他人を、つまさす人は、行動にも、思いやりが、無いので、子供でなければ、共に暮れない。
- ③ 元気で、長生き出来て、生きている実感が、あるなら、良と思つた。人は、おれでも、他を愛し、続け、役に立ちたいが、現実には、悲しいものが、あつて、一口に、長命を、可と思えない。

日本の人口は、確実に、高齢化へと推移していき、自分も、110歳は、そういう年齢になる日がくると、事は、わかっているけれど、その時のために、何をどうすれば、いいかは、今の所、考へていないというのが、現状、ただ、漠然とではあるが、自分の生活は、自分で守るために、健康で、110歳でも、若く、気持ち、持ちつづけて、いらさうとは思っています。

どのテーマも、他人事ではなく、自分自身にも、関係の、有る事だと思つて、あが、人々に、ついては、まだ、自分の、身近で、感じられなくて、どのように、書いたら、良いのか、考へて、しまいます。

このテーマについては、その言葉の、<sup>持つ</sup>響きは、あまり、良くない、気が、します。

いずれのテーマも、普段、私達が、むと、考へなければ、ならない、事なので、しようが、自分の、身近に、まだ、感じられず、これから、将来に、向けて、ゆつくり、考へて、いきたい、重要な、問題、だと思つて、います。